

公益社団法人 日本柔道整復師会・機関誌

Feel!Go!

日整広報

VOL.258

秋号
2021/11

特集記事

東京2020オリンピック・パラリンピック 活動報告

公益社団法人 日本柔道整復師会
www.shadan-nissei.or.jp

◎ 整復・固定施術技術実習

講師： 特別諮問委員 山口 登一郎

山口講師は、少人数で施術を行う接骨院でも取り入れることのできる実践的方法として、一人でできる前腕骨遠位端骨折の整復・固定法について解説。

「上腕の遠位端部にバスタオルを載せ、寝台の上に乗って足で固定する。一番大事なのは両母指と両示指の当て方。手根部と前腕遠位端を包むようにしっかり密着させて末梢方向に牽引することがポイント。両母指は遠位骨片の背側に当てる。両示指は近位骨片の遠位端に当ててゆっくりと末梢方向、そして尺側気味に牽引する。女性など力の弱い方は膝に前腕を当てて膝の力も利用して牽引すると良い。手に汗をかく人はラテックスグローブを使用するのもひとつの方法だ。牽引しつつ、両示指を支点として背側から掌側方向に、両母指で直圧を加える。そして触診で末梢片と中枢片が適合したところで回内して掌屈する。これが整復の一連の流れとなる。そのまま手を放さずに寝台から降り、固定に移る。固定に用いるクラメル金属副子は、フラットにすると接

地面がうまく当たらず、固定した後にずれてしまうため、手掌部、前腕部のアーチにぴったり合うように作成すること。MP関節が屈曲できるように固定することも予後をよくするためにはとても重要となる。患部が確認できるよう、シーネを把持しながら手関節部と前腕近位に包帯を巻く。一人で包帯を巻くのは難しいため日々の鍛錬が必要になる。固定がずれないことを確認したら、血液循環を確保するためにカナルシートを使用する。下巻きとして包帯を一周巻いたら、カナルシートの凹凸面を皮膚側に向けて当てる。その後、背側にカーブに沿わせて採型したクラメル副子を当てて固定する。最後に、三角巾で提肘する。患者さんを座位にする際には急に起こすと貧血を起こす可能性もあるので、ゆっくり起こすようにすること」など、整復・固定を実践しながら丁寧に解説した。

その後、各地域から参加する受講者が実技を行い、モニターを用いてオンラインで確認・指導を行った。

